

事業所自己評価シート（ACO放課後等デイサービスふれんど児童発達支援）

平成31年度実施

職員による自己評価

A環境面

・ 訓練室等スペース・バリアフリー化について適切である

・ 職員の配置は75%が適切であると評価。

B児童への支援内容

・ 標準化されたアセスメントツールを活用し、子どもと保護者のニーズと課題を分析している

・ 個別活動と集団活動とを必要に応じてして個別支援計画を作成

・ 日々の活動プログラムでも固定化しないよう工夫して立案を行っている。

・ 支援内容の改善に努めたい

C関係機関との連携

・ 職員研修を行い、積極的に参加している。

D保護者への説明責任・信頼関係

・ 日頃から保護者とのやり取りを行い、子どもの発達状況・課題点の共有を積極的に行っている。

・ 毎回療育の最後に保護者へのフィードバックを行いその日の子どもの様子を共有している。

・ 定期的な保護者会の実施・地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を積極的に行っていく。

E非常対応

・ 非常時の備えについて職員間で避難経路・対応フローを定期的に確認しておく。

保護者による評価

A環境面

・ スペースの確保ができています

・ 階段が少し急である

B児童への支援

・ 様々な活動プログラムがある

・ 個別支援計画が客観的に作成されわかりやすく説明されている

C保護者への説明等

・ 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の実施についてよくわからない。

・ 親の疑問やその時の困りごとを聞けるよりどころになっている

・ 子どもの様子・困りごとをととても話しやすい

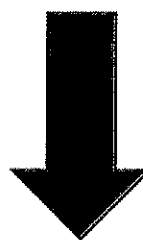
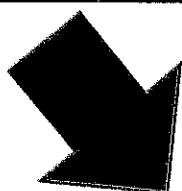
C事業所からの情報発信

・ 保護者会があまりない

・ 保護者同士の連携はあまりない

D非常対応

・ 定期的に行われているかわからない



事業所内での分析

【共通点】

- ・活用スペースは確保され、職員の配置・専門性についても評価されている
- ・活動プログラムの工夫がなされ、個別支援計画は客観的に作成され分かりやすく説明されている。
- ・日頃から保護者とのやり取りをし、子どもの発達状況・課題点の共有ができています。保護者会など、保護者同士の繋がりを支援する活動を大きく行っていない部分が課題。
- ・定期的な避難訓練等非常時については課題が残る。

【相違点】

- ・設備のバリアフリーについては意見が職員と保護者で分かれた。手すりはあるものの、階段が急だという意見があった。
- ・行事予定などの情報を、会報を用いて発信しているが、発行回数やホームページの更新回数が少ないと指摘があった。

分析・検討してみてください・・・

事業所の強み

- ・専門性があり、一生懸命に支援している
- ・医療・学校・家庭や他機関（療育センター・児童相談所・区行政など）との連携が実践的に行われている。
- ・臨床心理士・保育士・看護師などの有資格者が多く在籍している

事業所の改善点

- ①バリアフリー化の改善
- ②活動プログラムの工夫
- ③情報発信の改善（ホームページの更新回数など）
- ④緊急時対応訓練実施したことの周知

事業所改善への取り組み

①について

バリアフリー化への設備の改善対策を立て必要時の設備工事や段差の補修改善を図る

②について

今後も子供の発達状況・課題を客観的にアセスメントし、プログラムの工夫を行う。

③について

会報やホームページにて活動概要や行事予定・体制連携の発信の工夫を図る。

保護者会・談話会・交流会を定期的に開始する計画を立案実施する

④について

子供のための避難訓練会を年3回実施予定。保護者と事業外の緊急連絡訓練を年2回実施予定と計画を保護者にホームページ、会報などで周知する

～事後評価を行っての事業所としての感想など～

現在の保護者・利用者の満足度は高めであり、専門性を評価していただけている。

今年度はより向上を目指していくことと、相談や申し入れへの対応をもっと迅速にしていくことを心掛けていく。

事業所の持っている強みを生かしていくためには、保護者からの信頼がなければよい実践ということにつながらないと感じた。直接的支援にかかわる部分以外の対応の速さと正確さも含めての専門性と捉え、子どもや保護者の方々とともに健康的な生活を送るための支援を目指していこうと再認識した。

事業所名 ACO放課後等デイサービスふれんど

担当者 野中 友美

事業所自己評価シート（ACO放課後等デイサービスふれんど）

平成31年度実施

職員による自己評価

A環境面

- ・ 訓練室等スペース・バリアフリー化について適切である
- ・ 職員の配置は75%が適切であると評価。

B児童への支援内容

- ・ 標準化されたアセスメントツールを活用し、子どもと保護者のニーズと課題を分析している
- ・ 個別活動と集団活動とを必要に応じてして個別支援計画を作成
- ・ 日々の活動プログラムでも固定化しないよう工夫して立案を行っている。
- ・ 支援内容の改善に努めたい

C関係機関との連携

- ・ 職員研修を定期的に行い、積極的に参加している。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・ 日頃から保護者とのやり取りを行い、子どもの発達状況・課題点の共有を積極的に行っている。
- ・ 毎回療育の最後に保護者へのフィードバックを行いその日の子どもの様子を共有している。
- ・ 定期的な保護者会の実施・地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営はこれから積極的に行ってきたい。

E非常対応

- ・ 非常時の備えについて職員間で避難経路・対応フローを定期的を確認しておく。

保護者による評価

A環境面

- ・ スペースの確保ができています
- ・ 階段が少し急である

B児童への支援

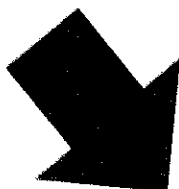
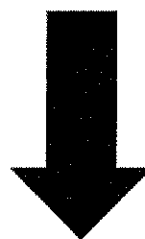
- ・ 様々な活動プログラムがある
- ・ 個別支援計画が客観的に作成されわかりやすく説明されている

C事業所からの情報発信

- ・ 保護者会があまりない
- ・ 保護者同士の連携はあまりない
- ・ ホームページがあまり更新されていないように思う

D非常対応

- ・ 定期的に行われているかわからない
- ・ 利用開始時に説明を受けている



事業所内での分析

【共通点】

- ・活用スペースは確保され、職員の配置・専門性についても評価されている
- ・活動プログラムの工夫がなされ、個別支援計画は客観的に作成され分かりやすく説明されている。
- ・日頃から保護者とのやり取りをし、子どもの発達状況・課題点の共有ができています。保護者会など、保護者同士の繋がりを支援する活動を大きく行っていない部分が課題。
- ・定期的な避難訓練等非常時については課題が残る。

【相違点】

- ・設備のバリアフリーについては意見が職員と保護者と分かれた。手すりはあるものの、階段が急だという意見があった。
- ・行事予定などの情報を、会報を用いて発信しているが、発行回数やホームページの更新回数が少ないと指摘があった。

分析・検討してみてください・・・

事業所の強み

- ・専門性があり、一生懸命に支援している
- ・医療・学校・家庭や他機関（療育センター・児童相談所・区行政など）との連携が実践的に行われている。
- ・臨床心理士・保育士・看護師などの有資格者が多く在籍している

事業所の改善点

- ①バリアフリー化の改善
- ②活動プログラムの工夫
- ③情報発信の改善（ホームページの更新回数など）
- ④緊急時対応訓練の実施通知

事業所改善への取り組み

①について

バリアフリー化への設備の改善対策を立て必要時の設備工事や段差の補修改善を図る

②について

今後も子供の発達状況・課題を客観的にアセスメントし、プログラムの工夫を行う。

③について

会報やホームページにて活動概要や行事予定・体制連携の発信の工夫を図る。

保護者会・談話会・交流会を定期的に開始する計画を立案実施する

④について

子供のための避難訓練会を年3回実施予定。保護者と事業外の緊急連絡訓練を年2回実施予定と計画を会報やホームページにて周知する

～事後評価を行っての事業所としての感想など～

現在の保護者・利用者の満足度は高めであり、専門性を評価していただけている。

今年度はより向上を目指していくことと、相談や申し入れへの対応をもっと迅速にしていくことを心掛けていく。

事業所の持っている強みを生かしていくためには、保護者からの信頼がなければよい実践ということにつながらないと感じた。直接的支援にかかわる部分以外の対応の速さと正確さも含めての専門性と捉え、子どもや保護者の方々とともに健康的な生活を送るための支援を目指していこうと再認識した。

事業所名 ACO放課後等デイサービスふれんど

担当者 野中 友美

職員による自己評価

実施：令和2年2月 回収8名

A環境面

・訓練室等スペースは、54%確保されているとの評価だが、46%は人数に対しもう少し広いペースが必要と考えている。

・職員の配置数で45%が適切であるという評価であり、どちらでもない、いいえは55%適切でない。重度、軽度の子どもにより、対人関係が持てない子どもには手がかかる。

・設備においてバリアフリー化の配慮では36%適切であると評価しているが、どちらともいえないは54%であり、入口の段差改善があげられた。

B業務改善

・業務改善を進めるための参画をしているは45%で勉強会等を開き仕事の向上を図っているという評価がある反面、45%はどちらともいえない、1名はいいえという結果であった。

・保護者向け評価表を活用し、保護者の意向を把握し業務改善につなげているかでは、36%の評価のうち、新たなイベント（夏祭り）を実施、新たな取り組みを行えたという反面、どちらでもないが45%、いいえ1名であった。

・自己評価結果を事務所の会報やホームページで公開しているかは、どちらともいえないが63%、いいえ36%であり問題点である。

第三者による評価結果を改善につなげているかでは、未記入18%、いいえ28%、どちらともいえない45%と問題点である。

・研修の機会確保では、90%が評価しており、外部講師の研修が行われ質の向上を図っている評価を得た。

C適切な支援の提供

・適切なアセスメントを行い客観的に分析し計画作成しているかでは、73%作成しているとの評価であり、27%はどちらともいえないという結果であった。

・標準化されたアセスメントツールは91%が使用しているとの評価だった。

・活動プログラムの立案は64%はチームで行っている評価ではあるが、18%（2名）はいいえと回答した。

保護者による評価

実施：令和2年2月 回収48名

A環境面

・活動のスペース確保は、64%確保されているとの評価だが、青葉区の駅近なのでしかたない31%の反面、5%の方は狭いと感じていた。

・職員の専門性では88%が適切であるという評価を得られたが、職員配置においては12%が関わっている職員が何人いるか、担当者が分からないという評価があった。

・設備においては、55%手すりの設置はあるが、肢体不自由児は対象にしていない為か、バリアフリー化の配慮はどちらともいえない回答が33%となった。10%マットのずれなどの改善が必要という評価だった。

B児童への支援内容

・個別支援計画作成では、77%は客観的に作成され分かりやすく説明されている評価がある反面、23%はどちらともいえない。人数が多いこともあるので個々に合わせるのは難しい日もあるという意見が聞かれた。

・活動プログラムの工夫においては、74%工夫されているという反面、24%はもう少し詳しく内容を教えてほしい。長期休暇の時のプレイルーム遊びやクッキングをもっと入れてほしい要望があった。

・児童クラブや児童館などでの障害のない児童との交流の希望は7%であり、いいえ、どちらともいえないを含め93%は必要とは思っていないという評価であった。

C事業所からの情報発信

・利用者負担の説明では80%丁寧な説明がなされたが、20%は開始時の説明が少ないという評価であった。

・子どもの状況や発達課題での保護者との共通理解では68%できている評価であったが、32%は連絡帳のフィードバックの少なさや送迎時などスタッフとお話する機会が少ないなどの評価であった。

・保護者面談や育児相談の支援が行われているとの評価68%であり、32%は面談を増やしてほしいという評価であった。

・活動プログラムが固定化しない工夫では、73%は工夫していると評価しているが、いいえ、どちらでもないを含め 27%はできていないという評価もあった。

・平日、休日、長期休暇に応じて、課題を細やかに設定している 77%評価があるが、いいえ、どちらでもないは 27%であった。

・個別と集団活動を適宜組み合わせる計画作成をしているかは 63%がしているが 36%はどちらでもない評価であった。

・支援前の職員間での打ち合わせ支援内容や役割分担についての確認は、73%午前中の時間を使い分擔、ケース確認を行っているという評価がある反面、27%はいいいえ、どちらともいえないとの回答があった。

・支援終了時には、職員間で打ち合わせをし、支援の振り返り、気づいた点等の共有では、64%共有していると評価がある反面、36%はどちらとも言えない、いいえの回答があった。

・記録の徹底、支援の検証・改善につなげているは 81%と高い評価であった。どちらでもないが 18% (2名) であった。

・ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせた支援は 54%行っている評価であり、36%はどちらともいえないであった。

D 関係機関と保護者との連携

・相談支援のサービス担当会議への参画はふさわしいものが参加しているかは 64%参加しているという評価であった。どちらともいえないが 36%であった。

・学校との情報共有、連絡調整を 73%適切に行っているが、急な欠席は送迎時間調整であわただしくなる。どちらでもない 27%の回答があった。

・医療的ケアの子どもの受け入れ、主治医との連携体制は 82%整えられていると高い評価である。どちらともいえないが 18%の回答であった。

・就学前に利用していた幼稚園や保育園など、発達支援事業所との情報共有と相互理解は、64%努めているが、いいえ、どちらでもないは

・父母会の活動や支援や保護者会など保護者同士の連携においては、35%SSTの保護者会が良いがその他の保護者会などをしてほしい要が 34%あり、31%は多忙で参加は難しいという結果であった。

・苦情があった場合の対応について、47%は対応している評価で、困ったことがあった時は、直ぐに対応して頂き嬉しく思うという反面、1名はいいいえという評価であった。どちらともいえないが 50%であった。

・意思疎通や情報伝達のための配慮では、73%は送迎時の様子を知らせていただきできているという評価を得た。2% (2名) はいいいえという評価であった。

・会報やホームページにて活動概要や行事予定、連絡体制の発信においては、51%どちらともいえないという回答が多く、14%はいいいえの評価であった。会報があるといい、予定表はあるがよりよく教えてもらいたなどの評価であった。

・個人情報においては、92%は十分に注意しているという評価であった。

D 非常対応

・緊急時対応マニュアル、防犯、感染症対応マニュアル策定、保護者への説明や周知では、いいえが 35%、どちらともいえないが 51%であり、12%と低い評価となった。

・非常災害に備え、必要な訓練が行われているかでは、どちらともいえないが 68%であり、いいえは 24%であり、多分対応準備はしていると思うという記述と子どもに聞いたがなかったという記述があり、はいは 7%と低い評価となった。

E 満足度

・通所を楽しみにしている評価は 80%であったが、18%はどちらともいえない、1名はいいいえの評価であった。

・支援への満足の評価は 82%であったが、どちらともいえないは 18%であった。

36%であった。

・学校を卒業し放デイの事業所から福祉サービス事業所へ移行する場合、37%連携していると回答しているが、45%どちらともいえない回答であった。

・発達支援センターや発達障害支援センターの専門機関と連携し、助言や研修を55%受けている。どちらともいえない、いいえは45%が回答している。

・児童クラブや児童館との交流、障害のない子供との活動する機会があるかは、90%の回答で、交流や障害のない子どもと活動する機会はない。

・自立支援協議会参加は91%支援員も参加していると回答している。

・日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、発達の状況や課題について82%共有理解を持っていると評価し、18%どちらともいえないと回答している。

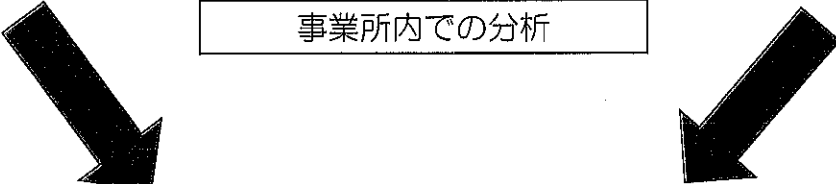
・保護者にペアレントトレーニング等の支援91%を行っているという評価が認められる。

E 保護者への説明責任

・運営規定、支援内容、利用者負担額については、82%丁寧な説明を行っているという評価があるが、18%どちらともいえないと回答している。

・保護者からの子育ての悩みに関する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているかは、91%行っていると評価している。

・父母会を支援したり、保護者会の開催、保護者同士の連携を36%支援している。いいえは18%、どちらともいえないが36%の回答であった。



事業所内での分析

【共通点】

環境面：活動のスペースは子どもの数が多いとやや狭い。バリアフリー化の配慮が必要で設備などの改善する点がある。

児童への支援内容：活動プログラムの工夫はされている。個別支援計画作成では、客観的に作成され分かりやすく説明されている。専門性があり、一生懸命に支援しているという記述が多かった。

事業所からの情報発信：会報やホームページにて活動概要や行事予定、連絡体制の発信の工夫、保護者会や交流会を開始していきたい。

非常対応：緊急時対応マニュアル、防犯、感染症対応マニュアル策定、保護者への説明や周知が徹底していなかった。（必要な避難訓練の回数も少なく、体験できていない子どももいた。）改善すべき点は共通点である。

【相違点】

環境面：保護者は職員の専門性は評価しているが、担当者や職員配置が分からない問題を回答している。

職員は職員配置数が子ども重度に応じて適切でないと回答している。

児童への支援内容：・保護者はプログラムをもっと詳しく内容を説明してほしい。活動プログラムでプレイルーム遊びやクッキングを取り入れた工夫をしてほしい要望がある。職員は活動プログラムでは固定化しないよう工夫していると評価し相違が見られた。

・保護者は困った時の対応は直ぐに対応してもらっていると評価がある反面、苦情対応の適切さにおいてはやや不満がある。職員は日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、発達の状況や課題について、共有理解を持っていると評価し相違が見られた。

・保護者は保護者面談や育児相談の支援が行われているとの評価している反面、もっと面談を増やしてほしいという要望が記述されている。職員は保護者からの子育ての悩みに関する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っていると一部相違が見られた。

その他：職員の業務改善評価において、どちらともいえない、いいえの評価が高く、改善の必要性の意欲にむらがあると思われる。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・専門性があり、一生懸命に支援している
- ・適切なアセスメントを行い客観的に分析し計画作成している。標準化されたアセスメントツールを使用し、日々の記録が特性アセスメントを観察し記録するという育成方法である。
- ・定期的に専門家の講師による勉強会が療育支援の課題により実施され学ぶことができる。
- ・地域との協力が得られ、環境的には家、家庭にいる雰囲気がある。
- ・医療、学校、家庭や他機関（療育センター、児童相談所、区行政など）との連携が実践的に行なっている。
- ・保育所等訪問支援があり、学校での問題行動にも対応できる。
- ・臨床経験がある臨床心理士、保育士、PSW、CW、

事業所の改善点

- ・環境面においては、活動スペースの狭さ。バリアフリー化（段差、設備の改善）
- ・支援内容においては、活動プログラムの工夫、保護者への説明の工夫。
- ・情報発信においては、会報やホームページにて活動概要や行事予定、連絡体制の発信の工夫、保護者会や交流会を増やす。
- ・非常対応においては、緊急時対応マニュアル、防犯、感染症対応マニュアル策定、保護者への説明や周知が徹底していなかった。（必要な避難訓練の回数も少なく、体験できていない子どもいた。）
- ・職員の業務意識改善の評価がどちらともいえないという評価が多く、改善意識に曖昧である。

事業所の改善への取り組み

環境面：

- ① 活動スペースの確保。集団の中で小集団グループ化の工夫。
- ② バリアフリー化への設備の改善対策を立て、必要時の設備工事や段差の補修改善を図る。

支援内容：

- ① 子どもや保護者の要望を話し合いながら取り入れ、活動プログラムの工夫を図る。
- ② 連絡ノートの工夫（活動内容が分かり、子どもの様子が読んで分かる）を図る。
- ③ 苦情対応のスタッフ間の手順の理解と丁寧な対応を学び実践していく。
- ④ 保護者とのコミュニケーションをとっていく。育児の不安に気づき、職員が育児や相談の面談を実施していく。

情報発信：

- ① 会報やホームページにて活動概要や行事予定、連絡体制の発信の工夫を図る。日々の子どもの活動がHP上からパスワード管理にて見ることができるようにする方向である。
- ② 保護者会、談話会、交流会を定期的に開始する計画を立案実施する。

非常対応：

- ① 緊急時対応マニュアル、防犯、感染症対応マニュアル策定、保護者への説明や周知を徹底する。
- ② 災害時の訓練会の実施。子どものための避難訓練を2か月毎に週刊計画で実施。また、保護者と子供の避難訓練会を年3回予定。保護者と事業所との緊急連絡訓練を年4回実施予定と計画する。

その他：業務改善において、非常勤や常勤の職員の共通理解を図り、温度差が起らないように人材育成をし、問題が起らないように業務の改善を図る。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

業務改善に対して問題と感じたら、すぐに改善を試みないと保護者の不安や不信に繋がると痛感しました。保護者の方からの記述も多く、貴重な意見を沢山知ることができました。事業所のもっている強みの部分を活かしていくためには、実践する職員の支援は改善を図ろうという意識が高くないとより良い実践につながりません。今回、保護者意識だけでなく、職員の意識や意欲の改善も図る必要があることが明確になり対策を立てることができました。事業所の組織やシステム作りなど弱みの部分を踏まえて改善を図り、子どもや保護者の方々と共に健康的な生活が送れるよう療育支援を目指していこうと再認識しました。

事業所名 ACO 放課後等デイサービスふれいす

担当者 中村 三奈美